

学校法人原田学園 鹿児島医療技術専門学校

令和元年度 学校関係者評価結果報告書

I. 学校関係者評価委員会の実施

1. 実施日:令和2年8月31日(月)
2. 評価者:鹿児島医療技術専門学校 学校関係者評価委員 16名
3. 議題:1)令和元年度 事業計画の実績報告及び令和2年度 事業計画について
2)令和元年度 自己評価結果について
3)その他

II. 評価結果

項目番号	評価項目名称	評価点(平均)
1	教育理念・目標	3.4
2	学校運営	3.3
3	教育活動	3.8
4	学習成果	2.9
5	学生支援	3.1
6	教育環境	3.3
7	学生の受け入れ募集	3.3
8	財 務	3.2
9	法令等の遵守	3.9
10	社会貢献・地域貢献	3.2
11	国際交流	2.5

Ⅲ. 評価意見

1. 教育理念・目標

- ・教育理念に即した人材育成、3 ポリシーをもとにしっかりと教育が行われている。
- ・理念などがしっかり策定され、学生・保護者、入学希望者などへの周知も図られている。今後の社会ニーズに対する将来構想が数カ年計画で示されると良い。
- ・教育理念、3 ポリシーについて、方向性が明確であり、入学希望者にとっては希望を、在學生については安心感を与えるものと思われる。
- ・郷土の医療・保健・福祉を担う人材を育成する上で必要な3つのポリシーを定めており、学生に対する学びの保障や個別の対応を丁寧に取り扱っている。
- ・パンフレットやホームページへの掲載情報として、卒業生の動向や活躍している姿は、将来像や職業人としてもイメージに繋がるため、学科ごとにあると良い。
- ・学生にはパンフレットやホームページで周知されているようだが、理解が難しいように感じる。理念はとても大事なので、年度はじめに理念を確認する時間を設けてみてはどうか。
- ・社会、経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想について好印象を受ける。技術革新が業界に与える影響を踏まえた将来構想も加えてはどうか。

2. 学校運営

- ・学校運営は改善等を行いながら適切に行われている。
- ・教育・研究機能を強化し、推進するための責任の所在と更新時期の明確化は、とても意義あることである。
- ・カリキュラム編成について、内実を具体的に評価する視点が必要だと考える。
- ・各学科、委員会にてPDCAサイクルを回し継続していくことに注目する。
- ・ここ数年、多数の委員会等が立ち上がっているが、委員会の目的・解決課題及びその達成期間を明確にして運営しなければ、教職員への負担増加のリスクとなる。
- ・コミュニケーションツールや管理システムの導入効果を維持することを期待する。
- ・コロナ禍によって運営に苦慮されているかと思う。コミュニケーションツールなどの活用により明確に全教職員へ周知する体制づくりとともに医療・福祉系の専門学校として感染拡大予防策の徹底を願う。
- ・会議議事録等の公表(オープン化)は可能な限りお願いしたい。
- ・ホームページの見易さや LINE 相談会といった、学生保護者への周知手段について非常に好印象を受ける。希望によりオンライン配信で通常開かれている授業を選択・参加できるなど体験価値へ繋げる仕組みがあれば、入学意欲を後押しし保護者にとっても安心できる決め手になるのではないかと。

3. 教育活動

- ・教育体制について常に改善に取り組み充実した活動が行われている。今後も具多的な細かい点まで検討することを期待する。

- ・教育理念から目標が設定されており、ぶれがない教育がされている。また、教員の教育もしっかりされていて、今後も継続して取り組んでいただきたい。一方で、学科による「差」を感じる部分がある。親身なアプローチを期待したい。
- ・医療・介護現場ではチームアプローチが重要視されていることから、各学科間の連携体制強化や、その連携によって得られる知識や経験などを明記して欲しい。
- ・授業アンケートについては、その結果をいかに分析して、PDCAサイクルに反映させるかというのが大事である。分析やシステム構築、学生へのフィードバックについて今後、検討・ご教示いただきたい。
- ・オンラインでの伝達手段が主となりつつあり、実習地訪問もオンラインに切り替えることで頻度も増やせ、連携も深まるのではないかな。

4. 学習成果

- ・卒業生調査は難しい側面があることは理解でき、情報収集の難しさはあるが、卒業生各種データ把握は学習効果の改善の可能性がある。また、コロナ禍での実習を経験した学生の卒後データも重要である。
- ・卒業後のキャリア時間軸の視点から考え、キャリア把握・データ蓄積の検討をした方が良いのではないかな。
- ・在校生と卒業生の交流や社会人としての自覚に繋げて欲しいため、卒後調査を望む。また、卒業生へのフォローアップの着実な取り組みを期待する。
- ・卒業後、学校との繋がりが感じにくく、同窓会の企画を立てても現状では難しいが同窓会等は凝集性も高まる。オンラインで行えるものの検討や学校の活動を新聞等の配布などで学校に関心を向けてもらう取り組みはどうか。
- ・教育経験者からのヒヤリングも有効な手段になるのではないかな。
- ・コロナ禍における学習評価について、教育内容やシラバスの変更等による影響や個別の対応に係る情報を高専連携の観点で共有化できれば良い。
- ・国家資格取得が一つの大きな目標なので、昨年度の国家試験結果を踏まえ、対策を十分に行っていたら、資格取得率向上及び社会的活動を高めて欲しい。
- ・就職率が100%にあるのは、「現状の求人件数」や「日本における就労人口の減少」から今後も周知の事実になるため、評価基準の枠から外して良いのではないかな。

5. 学生支援

- ・学生支援として、フリーWi-Fi や身障者用トイレ、スロープ、段差解消など、多様な学生への対応・支援が具体的に積み重ねられており、学生支援体制は概ね整っている。良い取り組みで、学校PRに繋がる。
- ・健康管理や生活環境、学生相談などの支援がしっかりしている。就職保護者説明会に関しては、保護者と連携を図るためにも、各学科実施しても良いのではないかな。
- ・昨年意見したフリーWi-Fi の未設置について、全館設置され評価できる。
- ・育児等を共にする学生の支援充実度はどうか。
- ・良い学生支援体制の構築には費用が必要となるため、収支バランスの踏まえ改善をお願いしたい。
- ・社会人にとっては4年課程という年数や学費がネックとなるので、支援は大変だが、他校の取り組みも参考にするなど、メリットに繋がる取り組みの拡充を期待する。また、育児・介護を共にする学生への支援も期待。
- ・卒業生に対して高い支援体制を維持して欲しい。キャリアセンターへの卒業生の転職相談件数が一定数ある。卒業生へのリカレント教育制度の導入を検討してはどうか。
- ・JR 運航停止の際の明確な対策を検討した方が良い。

6. 教育環境

- ・ハード面の改修は計画的に実施され、学内外の教育環境は十分整理されているが、目には見えない部分の老朽化が進んでいるように思われる。
- ・コロナ禍での教育停滞も災害と考えられ、同様のことが起こった場合の教育環境の整備が必要である。
- ・体制は整備されているが、学生が防災の意識をどれほど持っているのか気になる。避難訓練は年1回実施とのことで、消火器の使い方などもしっかりと身につけていただきたい。
- ・図書館の利用について、面積の関係もあり一部学生しか利用してないように感じる。書籍管理は大変だが、手に取りやすいオープンスペースで書籍を手にとれる環境があれば良い。
- ・書籍等のオンライン化は是非進めて欲しい。オンライン化することで、「学生向け」や「卒業生向け」の検索枠などを案内できるのではないかと。
- ・CiNii等文献模索システムを導入しているところもある。文献の見方・情報収集の仕方等の経験を期待する。
- ・環境整備については、そこにどれだけ予算が当てられているかというデータとの比較での評価が必要である。また、優先順位もあると思うが、現在は感染防止のための環境構築が優先になると思う。

7. 学生の受け入れ募集

- ・成果の評価は難しい面であるが、十分な活動が行われていると感じる。医療業界全体で改善に取り組む必要性を感じている。学ぶ意欲のある学生が更に増えてくれれば良いと思う。
- ・オープンキャンパスなど充実している。学校の特色や資格取得、4年課程の強みを活かした取り組みを行うことを期待する。
- ・4年間で学修することの意義は大いにある。減免制度の活用例や実際活用している学生・保護者の意見等あれば良い。
- ・学校環境・生活環境・学費など保護者が魅力を感じる設定工夫も必要である。
- ・コロナ禍における学生募集について内容の変更や規模縮小を余儀なくされた。「新しい生活様式」に沿った新たな仕掛けが必要となる。(高校等職業説明の機会など)
- ・教育成果の把握が不十分という自己評価のため、それを募集活動に生かしているかは疑問がある。
- ・学園全体の指針の検討、戦略に基づいたPDCAについて記載されているが、費用対効果についての検証も必要かと思われる。

8. 財務

- ・財務諸表が公開されており、財務の透明性が確保されていて、非常に好印象を受ける。引き続き透明性をもって対応いただきたい。
- ・どのような方針・戦略のもと、どんな予算が編成された結果だったのかに基づく評価が必要である。貴校ならではの長期ビジョンの検討を今後期待する。
- ・今後、少子化や建物の老朽化による整備、物品の購入などを考えると、財務基盤の判断基準を明確化することはとても重要である。
- ・少子化に伴う財政面の影響については、学生確保の課題と密接な関係性を持つ。そのため特に鹿児島南部地区、県外からの募集活動の工夫を並行して行う必要があるかと思う。
- ・各事業所別の予算・収支計画は可能な限り必要な教職員と共有することで、執行状況が期中で確認できる体制が望ましい。

9. 法令等の遵守

- ・各種規定やセキュリティポリシーなど、しっかりとしたルールが設定されている。今後は、課題となっている周知・遵守する具体的な策が必要だと思う。
- ・法令を遵守し、適切な運営がされている。今後も自己評価等、客観性に基づいて実施いただきたい。
- ・学校運営の透明性を担保するためにも評価及び情報の公開を適切に行っている。課題解決のための諸取組が実効性の高いものになるよう更なる検証をお願いしたい。
- ・情報漏洩対策システムの導入効果を期待する。
- ・内部監査を実施しているので、継続し課題改善に取り組んでいただきたい。

10. 社会貢献・地域貢献

- ・立地条件が悪いと言われるが、その分他校に比し地域密着度は高く、地域貢献度も高い。
- ・地域に対して専門領域を活かし積極的に関わって頂いている。更なる学校のPR活動をして欲しい。
- ・地域があってこそ学校が成り立つというのはどの学校にも当てはまる。地域課題の解決のために学校が主体的にどう取り組んでいくかが重要になってくると思う。
- ・地域団体や職能団体への講師派遣など、積極的に地域に関わっている。災害対策について、避難場所へのボランティア派遣など、医療・福祉系の専門学校としての活動に期待したい。
- ・谷山・平川地区での活動を今後も是非取り組んでいただきたい。地域行事に公開講座を計画してはどうか。
- ・一般活動と専門職活動とに分け、特に専門職活動は範囲を市や県に拡大していくことを期待する。
- ・コロナ禍において交流の機会減少が懸念されるが、オンラインでの活用も検討いただきたい。
- ・個々のボランティア活動の情報公開も検討していただきたい。

11. 国際交流

- ・留学生の受け入れについては、様々なハードルがあり、容易なものではないと思うが、将来の我が国の医療・保健等を担う人材育成に国際化は避けられない今、産官学での積極的な取組が期待される。
- ・中長期ビジョンに関わる大事な課題であり、今後の検討を期待する。
- ・留学生にとっても魅力ある学校を伝えるためにもパンフレットの作成は良い取組みである。
- ・国際交流としてどのようなことを目指しているのか明確でない。国際交流を通じて在学生在が学べる体制を作って欲しい。
- ・留学生の受け入れに苦慮していることが伺える。近隣大学等からの講師派遣だけでなく、本校からの講師派遣や学生交流があれば良いのではないか。

以上